

上野天神宮

上野天神宮は、天神様として崇められ、学問の神様として神格化された菅原道真（845-903）への祈りの場所になっている。ここから上野天神祭が始まった。祭りの行列は天神様の祝福を広めながら、町を練り歩くのである。

松尾芭蕉（1644-1694）が29歳のとき、30種類の対になった異なる俳句（彼自身の俳句二首を含む）を対にして、それぞれの長所を軽快な調子で比較した解説集を出版した。これは芭蕉の最初の出版物「貝おほい」である。彼の本名である松尾宗房で書いた唯一の作品でもある。彼は作品を上野天神宮に捧げた後、江戸（現在の東京）に出て、プロの俳人になった。

主神は天神様であり、神社そのものも芭蕉に関係があることから、執筆や学問での成功を祈願するために、人々は上野天神宮に詣でる。上野天神宮では、一年を通じて、さまざまな祭りや行事が行われている。